

横浜市における自殺の現状（概要）

－平成 20 年警察自殺統計データ（県警データ）を用いた解析－

1 自殺者数の内訳（発生日・曜日・時間・場所×手段）

- 平成 20 年は、全国の自殺者数は 32,249 人で、横浜市の自殺者数は 711 人（男性 466 人 女性 245 人）でした。
- 全国、横浜市ともに男性の自殺者数が女性より多く、全体の 7 割近くを占めています。
- 男性は 6 月（50 人）に、女性は 10 月（30 人）に最も多く自殺がみられました。
- 男性は木曜日の自殺（79 人）が最も多く、女性は土曜日の自殺（42 人）が最も多くみられました。
- 自殺の時間が判明した 490 人（男性 308 人 女性 182 人）のうち、男性では 5 時（22 人）に、女性では 15 時（12 人）に自殺した人が最も多くみられました。
- 男女ともに「自宅での首つり」（男性 182 人 女性 124 人）が最も多くみられました。

2 自殺者の背景（職業・自殺未遂歴）

- 男女ともに「無職者」の自殺者数（男性 214 人 女性 190 人）が最も多くみられました。
- 男性では「自営業者・家族従業者」の自殺者の割合が、全国より低くみられました。
- 自殺未遂歴「あり」の者の割合は、男性（15.2%）より女性（30.6%）に高くみられました。

3 自殺の原因・動機（原因・動機は 53 種類の中から最大 3 つまで挙げられる）

- 「遺書」「自殺サイト・メール等への書き込み」「生前の言動」といった自殺の原因や動機を判断する資料（以下、判断資料）を残した者は 436 人（男性 273 人 女性 163 人）で、全体の 6 割を占めています。
- 男女ともに「遺書」を判断資料として残す者（男性 182 人 女性 91 人）が最も多くみられました。
- 男女ともに、原因・動機として「健康問題」が含まれる者（男性 140 人 女性 117 人）が最も多くみられました（図 1）。

4 人口動態統計との比較

- 人口動態統計による自殺者数は 764 人で、例年どおり県警データより多くみられました（図 2）。
- 40 歳代の男性では、人口動態統計の方が県警データより自殺者数が多くみられました。
- 区別に男性の自殺者数をみると、鶴見区では県警データの方が多くみられ、南区では人口動態統計の方が多くみられました（図 3）。

今回の結果は一時的なものとも考えられるため、自殺の傾向については、複数年のデータをまとめて解析するなど今後の検討が必要です。

図 1 原因・動機/複数回答可

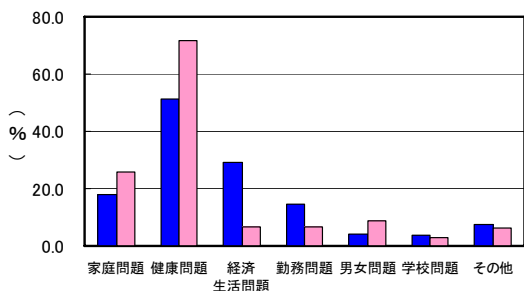


図 2 自殺者数(人口動態統計との比較)

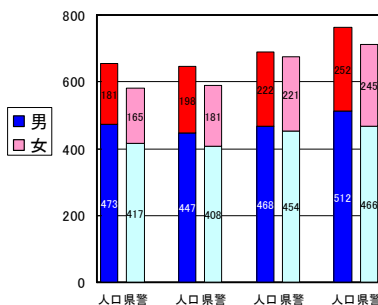


図 3 区別の自殺者数(人口動態統計との比較)

